

探鳥会スタッフ通信

2021年
9月号



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆「探鳥会リーダーズオンラインフォーラム 2021」を開催しました・・・・・・・・・・1	◆探鳥会開催状況・・・・・・・・・・8 (2021年7月分)
◆普及室からのお知らせ	◆探鳥会保険集計結果・・・・・・10 (2021年7月分)
・11月開催の「初心者向けバードウォッチング」 実施概要をお送りください・・・・・・・・・・6	◆今月の購読者数・・・・・・・・・・12
・探鳥会のリスクマネジメント研修のお知らせ (10月開催分)・・・・・・・・・・6	◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・13
・2022年オリジナルカレンダーのお知らせ・7	◆編集後記・・・・・・・・・・13

◆「探鳥会リーダーズオンラインフォーラム2021」を開催しました

新型コロナウイルスの感染拡大によって、従来通りの活動の再開を目指すことが難しくなってきました。そんなコロナ禍の中での新しい形の探鳥会活動やその他の普及活動について皆さんと考える場として今年もオンラインで探鳥会リーダーズフォーラムを開催しました。

【日時】2021年8月7日(土)
13時～17時

【開催方法】日本野鳥の会西五反田事務所
よりZoomで配信しました。

【参加者】15支部30名(釧路支部1名、宮城県支部3名、栃木県支部1名、埼玉1名、東京2名、愛知県支部9名、京都支部1名、大阪支部2名、ひょうご3名、鳥取県支部1名、岡山県支部2名、広島県支部1名、徳島県支部1名、長崎県支部1名、大分県支部1名)、財団職員9名(普及室6名、総務室1名、横浜自然観察の森1名、春国岱原生野鳥園1名)

【プログラム】

1「オンラインイベントを始めよう！オルタナティブな探鳥会のすすめ」(約90分)

- ・事前アンケートの結果
- ・事例紹介

日本野鳥の会埼玉 廣田氏
日本野鳥の会東京 石亀氏
財団普及室 江面

- ・質疑応答
- 2「今こそ野鳥観察のモラルを取りもどそう！」(約90分)
- ・『観察・撮影のマナーガイドライン(仮)』の内容説明
 - ・事前アンケート結果の共有
 - ・質疑応答
- 3「不安定な時代を乗り切ろう！コロナ禍の取り組み情報交換会」(約30分)
- ・事前アンケートの結果の共有
 - ・意見交換

【内容】

1「オンラインイベントを始めよう！オルタナティブな探鳥会のすすめ」

長らくコロナ禍によって、ZOOMなどを使ったオンラインイベントが新たなイベントの形として様々な分野で定着しつつあります。

とはいっても、情報通信ネットワークや様々な機材を駆使してのオンラインイベントは、企画実施する側も参加する側もまだまだ未知の部分や課題を多くかかえています。ここでは

2020 年度以降支部や財団で実施されたオンラインイベントの事例を通じて、課題や可能性を議論しました。

事前アンケートの結果

まず最初に、オンラインイベントの取り組み状況について伺った事前アンケートの結果を共有しました。

回答のあった 13 支部のうち 5 支部から、何らかのオンラインイベントを実施した、あるいは継続して実施しているとの回答を頂きましたが、その手応えの印象は大きく二分しているようです。「好評だった」「またやってほしいという反響があった」「定期的に開催している」などのポジティブな意見がある一方で、「参加者が少ない」「周知しても反響が少なく盛り上がりがない」など、思うようにならないもどかしさを率直に書いてくださった方もありました。

また、オンラインイベントを実施したことがないと回答してくださった方からは、「オンラインで実施するメリットがわからない」「参加者のネットワーク環境や機器設定の知識に制約を受けてしまう」「具体的な機材・運営手法、トラブルがあたっときの対処法が知りたい」などのご意見がありました。

事例紹介

オンラインイベントの事例を 3 例紹介し、上述のアンケートで見えてきた課題解決のヒントを探りました。発表では実際のオンライン探鳥会の配信動画や機材の使用方法などを交えながら説明し、参加者はオンラインイベントを具体的にイメージすることが出来ました。またオンラインのテストイベントへのお誘いやサポートの提案などもあり、これからオンラインイベントに取り組もうとする参加者にとって有益な情報が満載でした。

《事例①》

「オンラインフォーラムとオンライン探鳥会について」(埼玉 廣田氏)

埼玉では昨年 2 月より探鳥会が一斉に中止になったが、世の中のオンライン飲み会ブームに触発され、オンラインヤング探鳥会交流会を 2020 年 5 月末から月一回のペースで実施した。「双眼鏡等の機材の話」「支部の調査部の活動」「冬の時期のオススメ探鳥地」などのテーマを身近な講師に依頼し、毎回 20 人程度の参加者がある。

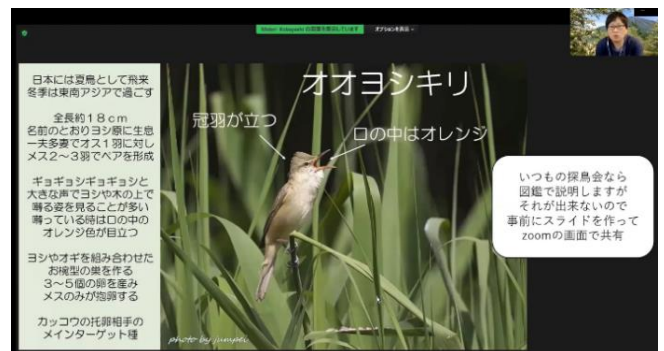
昨年 6 月、財団普及室主催の探鳥会リーダーズオンラインフォーラムでサシバの里自然学校のオンライン自然観察会の事例発表を聞き、『オンライン探鳥会』に挑戦。近隣支部のオンラインイベントスタッフとの情報交換や協力を進め、オンラインならではの企画(全国の複数の探鳥地からの中継。2020 年 12 月東京・埼玉共催)を実現させた。

『埼玉オンライン野鳥フォーラム』は探鳥会以外で参加者を楽しませることがやりたいと企画したもの。知識豊富な支部スタッフ内の人材を話し手に、毎回テーマを決めて 1 時間程度じっくり話を聴ける会にした。「毎週日曜日夕方 4 時から配信」と定例化したことで支部スタッフ内のやる気も上がり、参加者側も「週末の恒例行事」としてリピートしてくれる人が多い。7/11 まで 23 回の開催で毎回 30 名程度、延べ 850 人以上の参加者があった。

オンラインイベントを実施して様々な気づきがあった。

「手軽さ・気楽さゆえに初心者が意外と多い」「バリアフリーである(高齢や病気などで外出が困難な人も参加できる)」「参加者がよく話を聞いてくれる、会の活動を PR しやすい(画面に集中できるから?)」「イベントが会員獲得につながった」などの良い面と、「観察種やテーマに限られる」「参加者との意思疎通が難しい」「会議システムや機材の操作に慣れるまでが大変」「いかに収益化させるか」などの課題が見えてきた。

今までの探鳥会・イベントに加えて、初心者向け・バリアフリーなオンライン探鳥会や、「話を聞きたい」という意思を持って参加する方の多いオンラインフォーラムを継続し、会の活動への理解を深め会員獲得につなげていきたい。アフターコロナでもオンラインイベントとリアルな探鳥会のそれぞれの良さを生かした「二刀流」が実現できるのがよいと思う。



▲事例発表の様子(埼玉)

《事例②》

「3種類のZoomイベント ～わかってきたことは!?～」（東京 石亀氏）

東京で実施しているオンラインイベントはZoomを使用した「Young 探鳥会ライブ（探鳥会ライブビューイング）」「Young 探鳥会交流会（講師＋交流会）」「室内例会（普及部イベント）」の3種類。それぞれ5回、15回、2回と実施回数を重ね、全体の延べ参加者数は100人以上。

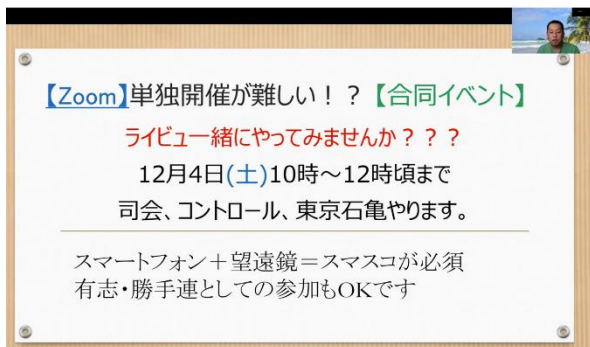
東京が持つ広報宣伝媒体5つ（WEBサイト、Twitter、FacebookInstagram、会報誌）の中でオンラインイベントの集客効果が高いのはTwitter、Facebook。一方QRコードと短縮URLを掲載した会報からの参加者は大変に少ない。

オンラインイベントへの参加のハードル・敷居の高さを推測してみると、一方通行（見ているだけ、聴いているだけ）の内容は敷居が低く、双方向（発言しなければならない、参加者同士の交流など）は敷居が高いのではないかと考えられる。

以上を踏まえると、①見ているだけ、②聴いているだけ、③クリックするだけのステップを整えることでオンラインイベントの参加者を増やすことができるのではないかと思う。

またオンラインイベントはネットをよく見るアクティブな非会員との親和性が高く、新規入会につながる可能性を秘めている。一方で従来の会報会員でネットを見ない層との親和性は低く、別のアプローチが必要である。

オンラインイベントの単独開催が難しい、やり方がわからない、という方は、今度探鳥会ライブビューイングを一緒にやってみよう（※1）。ぜひ参加してみたい。



▲事例発表の様子(東京)

※1：石亀氏企画のライブビューイング合同イベントは2021年12月4日(土)10時～12時頃に開催。詳しくは

tancho-staff@wbsj.orgまでご連絡ください。財団普及室より石亀さんにお知らせします。

《事例③》

「オンライン探鳥会をやってみて」（財団普及室 江面）

コロナ禍で探鳥会開催が困難になっても、財団で集めている「未入会でバードウォッチングに興味がある」人の名簿は今も続々と増えている（全国で約9万件）。普及室ではこの方たちに向けてオンラインイベント（探鳥会、講座）を開催しており、オンライン探鳥会はこれまで9回の開催で延べ300人の参加があった。オンライン探鳥会の具体的な運営方法を紹介する。

オンライン会議システムはZoomを使用（財団では時間制限をなくすためプラン2,000円/月を契約）。

探鳥地から望遠鏡・スマホで野鳥を撮影しZoomで生配信する。事務所からは全体の進行・探鳥地の映像の解説・通信トラブル時のフォローを行っている。広報は一斉メール配信で行い、申し込みのあった参加者へは開催前日に参加用URLをメールで送信する。Zoomプランでは一度に100名までのミーティングが可能だが、運営のしやすさを考えて参加者数は30～40名に設定している。

参加者層を分析してみると、幅広い年代が参加している。バードウォッチングの経験も初心者からベテランまで様々。オンライン探鳥会の広報に対する反応は高く、2020年オンライン探鳥会の広報件数に対する申込件数の割合は、野外探鳥会の申し込み割合の1.8倍に及んだ。

参加者からは「今年入会したが探鳥会がなく残念に思っていた。オンライン探鳥会があってよかった。」「ゼロ歳児の子育て中でコロナに関係なく大好きなバードウォッチングができない立場なので、オンライン探鳥会に感謝」「他の方と同じものを見て解説が聞けるのが勉強になる」「コロナ禍でなくてもなかなか足を運べない遠方の探鳥地の野鳥を全国の支部の協力で見られたらいいと思う」などの意見をいただいた。

オンライン探鳥会をやってみてわかったデメリットは、参加者との意思疎通が困難なことや探鳥地や観察種が限られることなどがあった。一方でメリットは外出困難・遠隔地などの様々なバリアの影響を受けず参加者の幅が広がること、参加者皆が同じ鳥を見られ「自分だ

け見られない」ケースがないこと、スタッフの数を増やせずに参加者数上限を増やすことが可能で大人数に対応できることなどがあることを実感した。(但し画面操作や通信トラブル等対応の専任スタッフの確保は必須)。

当初は野外探鳥会の代替としての苦肉の策として始めたオンライン探鳥会だが、今まで参加しなかった人、参加したくてもできなかった人にアプローチできるまったく新しいイベント開催手法であるという気付きを得た。

この分科会を聞いて、オンラインイベントに興味を持った方に、オンライン探鳥会を体験できる機会を設けたのでご案内する(※2)。また、財団普及室では支部のオンラインイベント開催をサポートしていきたいと考えているのでぜひ気軽に相談をお寄せいただきたい(※3)。

※2：財団普及室からご案内したオンライン探鳥会は8/21に終了しております。

※3：オンラインイベント開催に関するご相談は tancho-staff@wbsj.org までお気軽にお問い合わせください。

質疑応答

事例報告を受けて、参加者からも実践を見据えた質問が次々と出されました。「いろいろある会議システムの中で Zoom を選択した理由は？」との質問にはすべての発表者が「多くの人が使いやすい・手軽」と答えていました。また「限られた鳥や場所になると間が持たないのでは？」との心配には「鳥が見つからなくてもそれが臨場感を高めるので大丈夫！」とのおおらかな回答がありました。

2「今こそ野鳥観察のモラルを取りもどそう！」

近年のカメラ機材やインターネット技術の発達は、カメラ人口を増大させ野鳥観察や撮影のモラルを低下させているといわれています。こうした状況に対応するために財団では、初心者向けの『野鳥観察・撮影のマナーガイドライン(仮題)』を発行する予定ですが、フォーラム参加者の皆さんに事前にガイドラインの原案を読んでいただき、アンケートでご意見を伺いました。フォーラム当日は事前アンケートのご意見を切り口にガイドラインの考え方と内容をご説明して野鳥観察や撮影のマナーについて議論しました。

マナーガイドライン原案の内容

事前に参加者に読んでいただいた原案の概要は次の通りです。詳細は割愛します。

「野鳥観察・撮影のガイドライン」

目次：

・はじめに

I.野鳥の観察・撮影について

(1) 野鳥へのマナー

- ①ストレスを与えないように野鳥との距離をとる
- ②営巣中、育雛中の野鳥や巣へは近づかない
- ③音声による誘因はしない
- ④撮影にフラッシュ・ストロボを使用しない

(2) 人へのマナー

- ①餌付け、音声による誘因
- ②立入禁止場所への侵入
- ③私有地や団体等の所有地への侵入
- ④公園等公共の場でのマナー
- ⑤公道の利用
- ⑥他の観察者・撮影者への配慮
- ⑦プライバシー

II.画像・映像の公開について

- ①営巣中の親子、巣立ちびなや親子の映像・写真をSNS等で公開しないでください。
- ②営巣中・巣立ち雛や親子が写っているもの、マナーを守って撮影していない写真・映像は、写真コンテスト等に応募しないでください。
- ③くわしい撮影地は公開しないでください。
- ④稀な渡り鳥等の画像や映像は、鳥が撮影地からいなくなってから公開するようにしましょう。

III.その他にも気をつけたいこと

- ①植生へのダメージ、環境の改変。
- ②外来種やウイルスの拡散に気をつける。

★写真コンテスト主催者、新聞社、雑誌社等の皆様へ(マナー違反作品への考慮のお願い)

アンケート結果の共有

事前アンケートでは、④個人の立場で「ガイドライン原案の厳しさのレベルをどう感じるか」「ガイドラインに自分の観察スタイルを合わせようと思うか」、⑥幹事・リーダーの立場で

「ガイドラインに支部・連携団体も合わせようと思うか」「支部・連携団体としてどのように取り組むことができそうか」「今後マナーの普及や問題への対応にあたり、支部・連携団体・財団に何を求めるか」の5項目に答えて頂きました。

概ね原案のガイドラインの内容をご支持頂く回答を得られましたが、細部についての疑問やご指摘は多岐にわたりました。一例をあげると、画像・映像の扱いに関して、特に営巢中の親子・巣立ちびなの画像・映像の撮影・公開についてはフォーラム参加者間でも様々な意見があり、議論が白熱しました。今回のガイドラインの対象が鳥の生態の知識に乏しく公開の是非の判断が難しい初心者であることを鑑みて、営巢中の親子や巣立ちビナについては「公開しないでください」と記載するのが妥当だとの共通認識を得るまでに議論が深まりました。

質疑応答・意見交換

マナー対応に関して苦慮している支部が多く、困った事例の紹介が複数ありました。「地方の何もない農村部での鳥情報が SNS で発信拡散され全国的に有名になってしまった。県外から多くの車が押しかけて農地に立ち入ったりして地元迷惑をかけている（長崎県支部）」。

一方で状況が好転した事例も紹介されました。「公園で餌付けをする人の対応に困っていたが、公園管理者に掛け合っただけで餌付け禁止の看板を取り付けてもらうことができた。巡回の際にチェックもしてくれるようになった（大阪支部）」、「ブッポウソウの営巣場所を公開していないときはトラブルが頻発したが、あえて道の駅に観察・撮影場所を設定したらトラブルが減少した（岡山県支部）」など行政や地元との協力がマナー問題対応に大きな力を発揮することがうかがえました。

初心者向けのガイドライン(※4)の作成を手始めに、より深刻なマナー違反へいかにアプローチするのか、カメラメーカーやプロ写真家・マスコミ・行政などの外部の協力も得ながら、支部・連携団体・財団が共に作っていく方向性を確認して締めくくりました。

※4：初心者向けマナーガイドラインは来春ごろの発行を予定しています。



▲ 質疑応答・意見交換の様子

3「不安定な時代を乗り切ろう！コロナ禍の取り組み情報交換会」

既に1年半に及びコロナ禍で、探鳥会や会合を中止せざるを得ない状況に、誰もが口惜しく感じていることと思います。一方で、時間短縮や感染拡大防止の工夫をして可能な限り探鳥会の開催に努めてきた支部も多くあります。

ここでは、コロナ禍の中での各地の活動の実情を事前アンケートを通じて寄せていただき、みなさんが工夫してきたことや判断に迷ったことなどを共有するとともに、アフターコロナを見据えて、変化に対応した探鳥会や支部運営のあり方などについて議論しました。

アンケート結果の共有

事前アンケートではコロナ禍の探鳥会や会議・ミーティングの開催状況、支部・連携団体内でのコミュニケーションの状況を伺い、探鳥会開催基準や開催マニュアルなどがあればフォーラムで共有可能な範囲でご提供をお願いしました。

■探鳥会の半数は会員限定に

探鳥会はほとんどの支部で実施されていますが、そのうちの半数程度は会員限定にしているとの回答でした。また「中止になることが多くあまり開催できていないのが実情」とのご意見も複数ありました。開催基準・開催マニュアルについては財団のガイドラインや支部独自で整備された基準を使用しているとの回答がありました。一方で少数ながら、「基準がない」、「判断基準が変遷している」、「感染拡大状況と開催可否の判断がちぐはぐになってしまう」などのご意見がありました。

■会議・ミーティングはほとんどの支部でオンライン化

会議・ミーティングはほとんどの支部でオンラインを導入しているとの回答でした。状況に

応じて対面とオンラインの組み合わせで行っている支部も多いようですが、オンライン会議では参加者が少なかったり、そもそもオンラインでは参加できない役員がいるなどの内情も寄せられました。

■7割がコミュニケーション悪化・よくなったという声も

対面で会う回数が激減し、オンライン会議もうまく使えない状況で「コミュニケーションが悪くなった」と約7割の方が回答しています。反面、「よくなった」との回答が少数あり、「遠隔地や仕事の都合で今まで参加できなかった人がオンライン会議に参加できる」「オンライン会議で意見交流が深まった」などオンラインのメリットを実感できる面を理由として挙げています。対面コミュニケーションの不足をメール・メーリングリストで補完したとのご意見も複数ありました。

普及室からは、コロナ禍で活動するためのアイデアを共有する為メーリングリストの活用について呼びかけをしました。

まとめ

フォーラム全体のまとめとして、以下のようなコメントで終了しました。

「コロナの終息は未だ見えません。そんな中ですが、まずは役員やリーダー同士のコミュニケーションをできるだけとるようにお願いします。加えてオンラインを新たな手法として導入することも検討していただけないでしょうか？そのために、普及室ではできるだけサポートをしていきたいと思います。」

【おわりに】

戸惑いが隠せなかった今年のオンラインフォーラムから1年余、収束の見えないコロナ禍の日々にありながら、参加者の皆さんが試行錯誤を重ねながら支部活動を支えてこられたことがひしひしと伝わるフォーラムでした。

オンラインイベントの経験値は支部によって様々ですが、参加者の発言にあった「できない支部はできる支部のものを活用させてもらえたら嬉しい。勉強できる場にもしたい」を実現するために普及室でもサポートを充実させていきたいと思います。

(普及室/浅野綾子)

◆普及室からのお知らせ

■11月開催の「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

11月開催の「初心者向けバードウォッチング」の締め切りは、9月末日となります。開催を予定される支部の皆さまは、実施概要を

お送りください。
※詳細は7/15付で各支部事務局に送付した資料をご覧ください。

■探鳥会のリスクマネジメント研修のお知らせ（10月開催分）■

リスクマネジメントは、これからの時代の野外活動では必須の研修です。その考え方を知っているか知っていないかで、探鳥会の安全性が変わってきます。

コロナで活動ができないこの機会に、探鳥会のリスクマネジメントを見直してみませんか？

以下の要項をお読みいただき、ご参加いただける方は10/10（日）までにお申込みください。

【タイトル】

探鳥会のリスクマネジメント研修(基礎編/実践編)

【実施日】2021年10月16日（土）

15時～17時30分(締め切り10月10日)

【内 容】

前半の基礎編では、リスクマネジメントの基本的な考え方についてわかりやすく解説し、どのような法的責任がかかってくるのかについて解説していきます。

後半の実践編では、具体的に支部の探鳥会にむけてどのようなことをすればよいのかについてお話していきます。

【配布物】テキスト1冊（PDF版）

※以下のURLからダウンロードしてください。

https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/risk_management_text_202012.pdf

(当会の顧問弁護士ほか監修していただきました。)

【定員】定員 10名

【参加費】無料

【申し込み】件名に「リスクマネジメント研修申し込み」と明記の上、①お名前②支部名③メールアドレスを明記の上、10/10(日)までに tancho-staff@wbsj.org までにお送りください。

【受講環境】

- ①受講には、インターネットに接続する環境が必要です。
- ②お使いのパソコンに、スピーカー、マイク、webカメラの設備が備わっているかご確認ください。
- ③スマホでも受講できます。wifi環境での受信をお勧めします。
- ④zoomというサービスを使用する予定です。

【進 行】

- 15:00 オープニング
- 15:10 リスクマネジメント(基礎編)
- 16:00 質疑応答
- 16:10 リスクマネジメント(実践編)
- 17:10 質疑応答
- 17:30 終了



▲研修の様子

■2022年オリジナルカレンダーのお知らせ



- ワイルドバード・カレンダー2022
会員価格：1,320円／一般価格：1,540円

今年も「ワイルドバード・カレンダー」、「バース・イン・シーズンズ 卓上カレンダー」、「しあわせことりカレンダー」の3種を販売します。それぞれ、自然や野鳥の魅力にあふれる写真を厳選しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

〈支部卸販売のご注文、お問い合わせ〉
普及室 販売出版グループまでお願いいたします。
FAX：03-5436-2636
Email：r-hanbai@wbsj.org (担当：森谷(もりや))
※支部のHPにカレンダーを掲載の際は気軽にご連絡下さい。画像データなどご用意してお送りいたします。



- バース・イン・シーズンズ 2022 卓上カレンダー
1,100円



- しあわせことりカレンダー2022
1,100円

◆探鳥会開催状況（2021年7月分）

2021年7月は48支部が計95回の探鳥会を開催しました。昨年同月の開催支部数は34支部、開催探鳥会数は65回でした。（開催回数には中止の回数は含みません。）

表1. 7月の探鳥会開催状況（探鳥会保険の申請結果から作成）

支部	探鳥会開催回数 (2020年7月)	探鳥会開催回数 (2021年7月)
オホーツク支部	0	1
根室支部	-	-
釧路支部	-	2
十勝支部	-	-
旭川支部	0	0
滝川支部	1	0
道北支部	0	0
江別支部	-	-
札幌支部	0	0
小樽支部	2	0
苫小牧支部	0	0
室蘭支部	0	0
道南桧山	1	1
青森県支部	-	-
弘前支部	2	2
秋田県支部	0	2
山形県支部	2	1
もりおか	0	0
北上支部	1	1
宮古支部	-	-
宮城県支部	2	3
ふくしま	2	2
郡山支部	2	3
白河支部	1	2
会津支部	-	2
奥会津連合	-	-
いわき支部	1	1
福島県相双支部	-	-
南相馬	0	1
茨城県	4	5
栃木県支部	-	3
群馬	2	2
吾妻	1	1
埼玉	0	1
千葉県	0	0
東京	0	0
奥多摩支部	1	-
神奈川支部	2	0
新潟県	-	0
佐渡支部	-	-

富山	2	2
石川	1	1
福井県	0	0
長野支部	1	1
軽井沢支部	1	1
諏訪支部	-	-
木曾支部	1	-
伊那谷支部	0	0
甲府支部	1	2
富士山麓支部	1	0
東富士	-	-
沼津支部	-	-
南富士支部	0	0
南伊豆	0	0
静岡支部	-	1
遠江	1	0
愛知県支部	6	3
岐阜	-	-
三重	0	0
奈良支部	0	2
和歌山県支部	0	1
滋賀	-	2
京都支部	0	2
大阪支部	0	0
ひょうご	0	2
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	2
島根県支部	2	2
岡山県支部	0	1
広島県支部	0	1
山口県支部	2	2
香川県支部	2	2
徳島県支部	6	5
高知支部	-	1
愛媛	3	3
北九州支部	0	0
福岡支部	2	4
筑豊支部	0	6
筑後支部	-	0
佐賀県支部	1	2
長崎県支部	-	0
熊本県支部	-	2
大分県支部	2	2
宮崎県支部	0	2
かごしま県支部	0	1
やんばる支部	-	-
西表支部	-	1
報告支部数合計	62	71
開催支部数合計	34	48
開催回数合計	65	95

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆探鳥会保険集計結果（2021年7月分）※中止と下見を含む

7月は71支部からご報告をいただき、計107回の探鳥会が開催され、のべ1,555人が参加されました。（開催回数には中止の回数も含まれます。参加者数には中止の際の当日対応も含まれます。）

表2. 7月の探鳥会保険集計結果（2021年8月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	一般(人)		
オホーツク支部	1	15	0	1	16
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	2	15	21	3	39
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	2	0	0	2	2
小樽支部	0	0	0	0	0
苫小牧支部	0	0	0	0	0
室蘭支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	3	12	2	17
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	23	10	2	35
秋田県支部	2	5	4	2	11
山形県支部	1	4	0	1	5
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	0	0	0	0	0
北上支部	1	5	2	2	9
宮城県支部	3	40	11	5	56
ふくしま	2	37	1	4	42
郡山支部	3	49	0	5	54
白河支部	2	5	0	2	7
会津支部	2	8	0	2	10
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	11	1	4	16
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	1	5	8	5	18
茨城県	5	16	27	6	49
栃木県支部	3	28	20	11	59
群馬	6	52	9	20	81
吾妻	1	2	5	2	9
埼玉	1	14	0	6	20
千葉県	1	0	0	2	2
東京	0	0	0	0	0
奥多摩支部	-	-	-	-	-
神奈川支部	0	0	0	0	0
新潟県	0	0	0	0	0
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	26	8	6	40
石川	1	13	7	3	23
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	1	21	2	2	25
軽井沢支部	1	8	5	1	14
諏訪支部	-	-	-	-	-
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	28	0	5	33
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	-	-	-	-	-
南富士支部	0	0	0	0	0
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	1	9	3	3	15
遠江	0	0	0	0	0
愛知県支部	3	0	0	13	13
岐阜	-	-	-	-	-
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	2	40	1	4	45
和歌山県支部	1	3	8	2	13
滋賀	2	19	13	4	36
京都支部	4	15	1	9	25
大阪支部	1	0	0	1	1
ひょうご	2	15	10	10	35
鳥取県支部	2	19	8	2	29
島根県支部	2	10	4	2	16
岡山県支部	1	5	0	3	8
広島県支部	1	11	0	1	12
山口県支部	2	15	6	2	23
香川県支部	2	63	5	3	71
徳島県支部	5	88	15	5	108
高知支部	1	8	23	1	32
愛媛	3	39	9	6	54
北九州支部	0	0	0	0	0
福岡支部	6	44	19	14	77
筑豊支部	6	50	5	6	61
筑後支部	0	0	0	0	0
佐賀県支部	2	19	1	2	22
長崎県支部	0	0	0	0	0
熊本県支部	2	23	20	5	48
大分県支部	2	26	10	8	44
宮崎県支部	2	35	9	2	46
かごしま県支部	1	18	0	3	21
やんばる支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	0	5	3	8
全国	107	1,007	328	220	1,555

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 9月号の電子メール版の購読者数は、先月から 1 名減り 881 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 9月号電子メール版の購読者数 (2021 年 9 月 15 日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	7	軽井沢支部	1
根室支部	2	諏訪	6
釧路支部	4	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	6	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	4	遠江	11
道南桧山	2	愛知県支部	45
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	20
秋田県支部	4	奈良支部	6
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	33
北上支部	2	大阪支部	29
宮城県支部	39	ひょうご	17
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	8
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	7
福島県相双支部	0	徳島県支部	5
南相馬	4	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	58	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	23
埼玉	38	筑後支部	6
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	68	長崎県支部	3
奥多摩支部	49	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	5
佐渡支部	1	かごしま県支部	4
富山	3	やんばる支部	0
石川	30	西表支部	1
福井県	12	合計	881
長野支部	3		

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

最近、夜に散歩をしているとハクビシンに遭遇する事が多々あります。

先日は宵闇に響き渡る、猫でもない犬でもない謎の叫び声が…近づいてみると、取っ組み合いの喧嘩をしているハクビシンでした！

（普及室／十倉 久枝）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第102号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2021年9月15日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
